



未
玉
新
話

一
卷

共
五
本

洋学文庫
文庫8
C 176
2



萬國新話卷之一 亞細亞之部

東都 森嶋中良 編輯



○亞細亞洲の畧説

家兄甫周法眼此譯説小曰天下第一の大洲亞

細亞といふ。西の方「タナイス」大乃「ドウイス」杜亦拏の

兩大河を以て。歐羅巴と堪派分ち。ち「ミッテルランセ

ゼ」地中海「リデゼ」西紅海の間に一線路ありて。此支の海地

拔をりてあり。亞弗利加と堪を接（東の方「リ」支那の清國あり



亞至了。北の方「シケイ」に小ありて。「イスゼイ」氷海
 と隣り。南「ハイネテヤ」スゼイ。應帝亞海 小條む幅負廣
 大ありて人民繁盛あり。諸の藥品香料玉石珍珠
 をとどめ種々の品類は産する事。他の三洲不勝
 算なり。三洲ありのハ。歐巴。亞弗利加。 持ててく亞細亞ハ人教
 肇てけト。聖賢首出の郷ありて國土の開闢も
 川とも他の諸洲み先より。此の法海ハ上ニ 極めて有名
 大洲あり。其域を分て六とす。「ハムス」ビヤ没斯箇
 小屬一。「ハトル」曰度尔格 小屬一。「ハタツ」韃而韃
 屬一。「ハシ」ナ支那 小屬一。「ハイネテヤ」應帝亞 小

屬一。「ハハル」シヤ巴爾齊亞 小屬一。此洲は屬する事
 海客の往来多し。其著志は「ハ」ペリ止皮里。北
ハハル「セイ」ロ錫蘭。應帝亞「スモ」ダ蘇門答刺「シヤ」ワ瓜哇
ハハル「ボ」ル子勃泥「セ」シ。ヘス食カ白私「マ」ロ馬路古「バ」シ瓜哇
番打「ギ」ロ及勒々「ロ」ソ呂宋 等あり。吾 大日本國
 も亞細亞洲中の一大勝地あり。
 ○屋を車に駕韃而韃
 韃而韃國中ハ大なる城郭宮室如紋けを屋を
 車乃上り造りて。居所を之りも又校村とす。
 家足の譯統示いしく。此至中縣邑村落を分て。

萬國新語 卷之二

吃遼陽のめまに物造りて。夜ハ老少男女を肉
小トモあどり。養よてその後の歎け畜ちくまて。驚おどり居る
とあり。是ハ危あげつけ「ホルダス」韃靼語と云
々々也。

○君長くんちやうハ斜武しゃぶと云同上

同玉の人甚勇しやうゆうと好あまじり。病びやうハ係けりて没
多おほく大おほく辱をぢしと云。明人の説。或説小曰。ヨハレブラ
土人どじんハも強暴きやうぼうあり。能たく暑あつと憐あはれ小
耐た也。國俗こくじやくハの猛勇まうゆう絶倫てつりんあり。者しやハたてて主
と云。一。其稱そのなづして「シヤム」と云。即すなはち君長の

義ありと志こころざりと云ん。中良素ちやうらそと云。蝦夷えいの玉
人。其美そのみの人ハ好あまじり。志こころやむと云。是ハ其の地満
列ちやうハ接せつらるる也。韃たの志こころと云。其ハ好あまじり。一。

○馬肉ばにくハ食たら同上

土俗どじやくハも馬乃肉ばのにくを嗜たむ。靴くつ中ちゆうに肉にくを以もつ
て絶品てつひんと云。故ゆゑハ貴者きしやハも其そのれを食料じきりやうト
云。其その事ことハ一いつと云。一。道みちハ其そのれを
肌觸みふと云。紫むらの馬ばハ刺血さくけつを瀝あらして
是こゝハ欣よろこむ。又酒さけを好あまじり。碎くだりて菜さいと云。

○父母ふぼハ食たら同上

此國中東北の方此土人父母將死せんとき其時
則殺して是を食ふ親の恩をわらひて
の外不葬す。いふせに丘陵の下に埋る。小忍むを
去る後腹中を葬ると。明人の説

○葬送み人殺す 得白得

又西州の一種小国に得白得といふ国あり至大の
剛國あり其俗國王の死後輿棺て葬送すも
途中に人よ多ふ時ハ。ちとあはれは是
殺す。唱らく死して其王小事ふまふれと
一王の葬礼乃時人を殺す。万はりり

計一とあり。

○女國 亞媽撒擲

往昔韃の西小苗りて女國あり。アマサ子亞媽作
といふも。其勇ありて。戦を各に嘗て
可へス。厄弗俗。といふ。一の名都。其地
み廟祠を建。基址を湖中み築く。其約
四十四丈。寛二十丈余。内は白石の柱。大抵一百
五十七株。各高七丈許。祠の内石像
池安置す。祠乃四面は四門あり。其門毎は
白石をりりて造り。橋を架。正門の前

又美石を以て精工の畫しある神像を建
 たり。此神祠の経営二百二年余ありて成
 多やとて宏厯奇巧かるとんと思儀のおよぶ
 所不^レ_レ^レ西洋の人天下又七奇ありと稱す。
 七奇。蛮語してセイレウランドレイと云ふ。即七奇の義あり。又初を
 引ニルハ五区と云ふ。虞初新志中七奇居説あれども。たゞて誤多
 くして取小。是持の「小居。其月とて一度男子を
 容してその地に入し。是これと交接して其
 生を産不^レ此子。男子あれば輒^レられを去るを。
 今ハ他國小候^レられて。其持の名は存する而已
 あり。明人の家兄の譯説曰古「イニテヤ」の西ハ
 説

小「アマサ子」國あり。其ある女國あり。今ハ亡^レたり。
 又南亞墨利加洲中ハ「アマサ」亞媽鑽といふ國あり。
 此地ハ大山あり。其山中ハ婦人の住居を。春毎
 代不^レの男子は採りて合歡をある。是ハ平日
 山中迷ひ入^レ男子ある時ハ矢^レ屋^レ是ハ射殺
 是とぞ。其婦人乃^レ跡^レ亞細亞^レ中^レの女國^レと傳^レる
 也。「アマサ」と名づけしあり。あり。「アマサ」ハ
 「サ子」あり。「アマサ」ハ今存する。是家兄譯する
 不^レの「コウラドト」書名中の説あり。

○天下の圖 應帝亞

萬國新誌 卷之一

應帝亞國ハ昂天竺五印果實を多し。凶年饑嚴と

しとも。玉俗も果實を以て食ええたる絶て饑

焗の患あり。此地真珠玉石の不薬品香料を

産ます。天が下を用まさる不大半此が所

あり。さらによりて西岸の人稱して天下の園圃

といふ。此の文あり。素は吾邦の俗は大板日は玉中の基所を

○服傍同上

昭代叢書中小収ひる不の外玉竹枝の詞也。

寶髻青螺錦罽裁云

注云五印度の玉王ハ錦罽裁す髻螺のめく

給ひ。其の竹枝ハ不垂るとあり。素ハ見まるの俗あり

又明人の況はいくく男子ハ衣ハ不僅

又尺むうく布をもりて拵の布掩ひ女人ハ

布を以て首をと足すて履ふとあり。是ハ後の者あり

○王の子立を同上

明儒はも不の万國圖説いく。印第亞玉中

乃士農工賈ハ皆その業を世みす國王ハ父子を傳

りかし。其婦妹ハ子を以りて嗣とあり。王

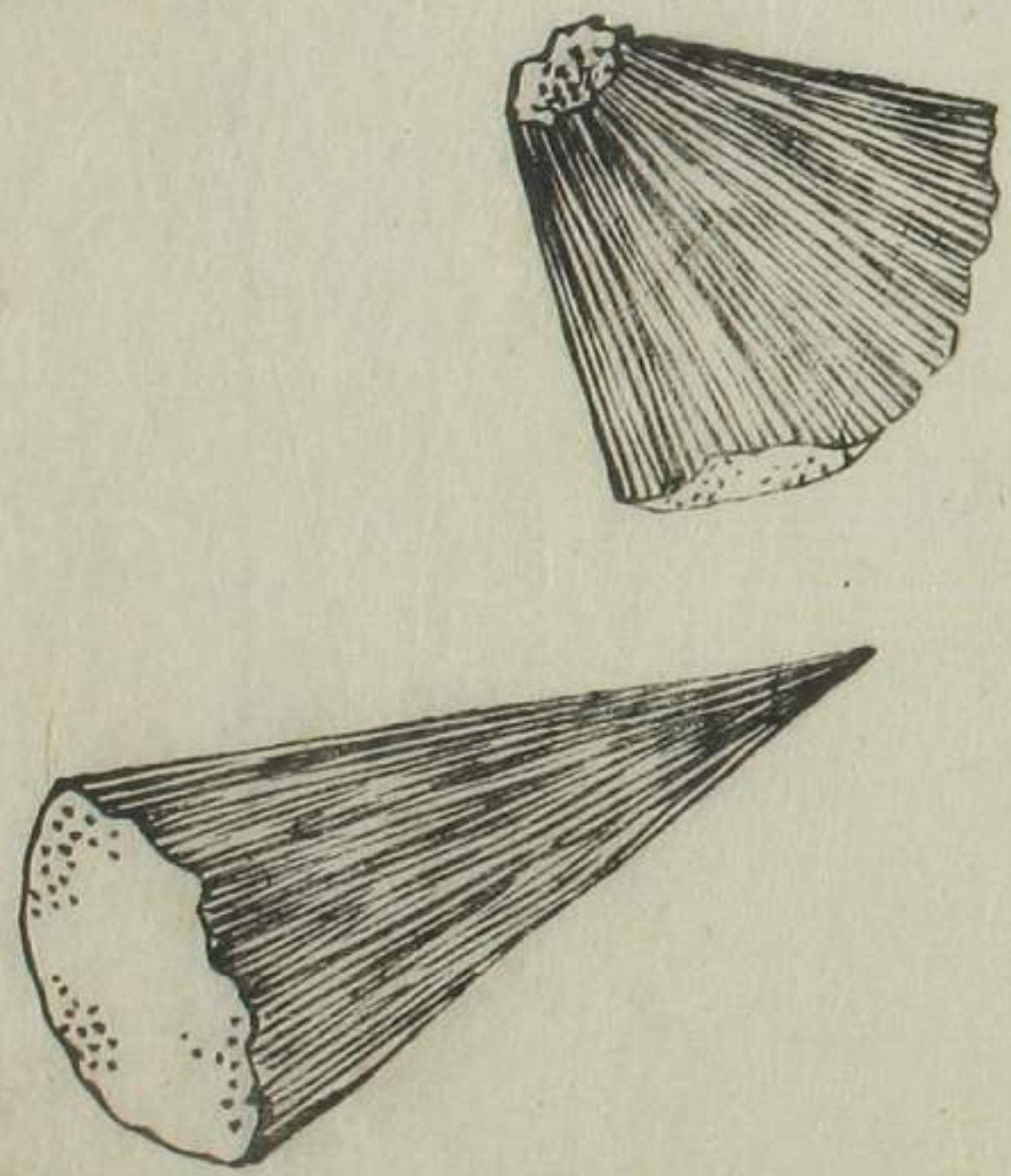
の子ハおおれれ祿を給りて自ら贍とあり。新井

先けの采覽異言も以況を裁られり

○ブルートステーン 同上

印第亞國中「ブルート」麻刺襪 又屬之。カナールと
 云ふ地より一ツ種の石を考へ紅毛語にて「ブルート」
ブルートハ血「ステイ」ハ石あり。「フテイ」ハ羅甸語ハ西洋一種の石也
ルースターと云ふ。又考へる石の名は「カナ
ルースター」といふ。石の質代赭石に似たり。孩推を
ツツ以て撃破ぐ一顆ごとく尖る形地を破月ハ針を
つら束もくめくの縦紋あり金瘡剝血。他身より
よか血を考へるもの。此石は心も握る時ハ倏忽ハ血
あまかゝむ。又考へる所の鮮血也。此石を削りて振る

ブルートステーン之圖



まは。木を隔つといふも。血の多し。中津の如
 此物の外。万玉と名づく。茶品の形状。伯氏
 著。その和蘭茶。選よる。一。くれ。は。書中。ハ
 とい。ら。ま。一。法。は。あり。

○根樹 東應帝亞

「クリストインデヤ」東印度の途小。多く奇草奇木
 を産む。就中二ツの異木あり。一ツ「アルボルテラ
 イ」イと名づけ。又「タルテルボム」と名づく。
 紅毛語を根樹といふ。其始生の時。他
 の樹木に異なる事あり。さて長ドて後。

枝の上は細條を生じ。繚々として下り。垂地は
 至れども。その根を生じ。年々経ふ。其
 て。本幹と異なり。か。如。此。の。敷。が。り。か。く。連
 結して。巨ある。林。の。枝。葉。蔭。々。と。して。下
 天。小。参。り。の。周。圍。二。里。不。及。ぶ。の。所。あり。枝。毎。又。皆
 細條を生じ。飄揺して。地。に。垂。を。く。見。ゆ。を
 り。む。細繩を掛る。か。如。一。球。中。の。視。あり。伯。氏。の。此
 を榕樹。ハ。河。川。中。良。葉。の。一。種。と。画。ぐ。不。の。万。玉。人。物。の。馬。の。本。の。枝。葉。蔭
 の。生。る。所。あり。と。て。画。ぐ。物。ハ。根。木。を。画。ぐ。如。右。の。ま。り。と。り。あり。一。
 又。云。此。樹。林。を。ハ。枝。葉。上。に。お。を。ひ。て。屋。宇。を。異
 なく。を。國。俗。の。一。種。と。住。居。る。の。あり。大。多。の。林

萬國新語 卷之一

根林之圖

「トクシ」区 紅毛本草に載る所の
圖あり



同弱木之圖

巴^{ロウ}木^キ 我屋を小梅^の
とあり



哀樹之圖

「ドクワイ」の樹



小いりてハ千餘人を坐せしむ。其樹の中。
 原幹^{ねぎ}又を以てハ斬^きて以て佛不供^{ぶく}を菩薩樹と
 名づく^なとあり。明人の説^{せつ}を以て我家の後^{うしろ}を以て
 樹^{うゑ}を植^{うゑ}花咲^{はな}むして実^みが結ぶ^{むす}ごとく枝^{えだ}より
 芽^{こゝろ}出^でし^の如^{ごと}くある小^こき瘡^{かさ}を生^うじ日^ひが経^かぶ
 去^いりて^きて^くと大^{おほ}き^くなる^に遂^{つい}に^は將^{まさ}指^さ
 の^の形^{かたち}不^{たが}い^たる^実とあり。形^{かたち}無^な花果^{はな}の如^{ごと}くありて
 色^{いろ}黒^{くろ}く紫^{むらさ}色の斑^{まだら}点^{あざ}あり。ソ^の弱^{よわ}樹^きあり樹^き枝^{えだ}上^{うへ}
 の細^こ條^{じょう}地^ぢより^すす。

○哀樹 同上

又一種の奇木あり。アルボルテリスと名づけ又
 「ドロヒケボーム」と名附。垂語して哀樹といふ
 義あり。其花昼に開く。夜に至ると始て閉く。其
 樹日中、枯る。如く日没して四半時を過ぎれば卒
 然と満樹花が萎く。乾葉より見え、飽む。其
 多量分々として愛する。樹より通霄かくの
 如くあり。て曉ふ。これを盡く地は腐る。枝葉も
 亦枯委む。夜々としてあり。りる。次年絶む。
 明人の地球説
 小の樹とあり

○安日河 同上

東應帝亞小大のあり。かごげ区安日と名づく。玉
 人のらく。一皮去の河あり。浴する。此の飛業
 ことごとく消除す。からが急。五印度の人咸
 かに沐浴す。こひ縁がく。飛障の消滅して
 天よ生をうらん。る。祈るとあり。此迄
 の人。皆四元の地をまるとあり。四元の事ハ
 紅毛教話の二。家兄の考に曰。往昔張騫安
 石園より。ついで。柘榴子が。帶來。此の安
 石園といふといふ。安石國あり。その。即ち安日
 河の源あり。安石安日。音あり。

万国新誌 卷之一 〇十

○南印度の異

コイドインテヤ南印身の地勢三角形をなす。其末の鏡
 なる闊サが約百歩をぐる。東西相去りなき
 がた。氣候は春ふお夏も東の方より冷れむ。
 西の方ハ霽天あり。其地をぐるにハ彼地から
 らむと扱つた彼方ハ大風海を吹て洪波天を散
 ふが如くあり。此方ハ漣漪と立てて平地
 の如く穏あり。あれ南印身亞のを異とする
 あり。明人の説

○バサル附 東方真珠 巴爾奇亞

「バルシヤ」巴爾奇亞 國トを玉石。駿馬。絨緞を出也。又海
 の「バサル」把雜尔。昂。鮫。答。等。俗。不。馬。也。を産ん。其物ハ「ベッ
 ア」鹿の形羊の如く。鹿は似たり。と云ふ獸の後トを名とするあり。
 此國の海中「イルム」忽魯魯「ハワ」私等の鴻を産
 出也。其珠を西岸トてハ東方真珠と稱し
 て附不貴をん。其他「バシム」こころぐ「カ」こころぐ「ユル」こころぐ等の
 諸島も亦多く出れり。其各不採得る
 其の皆「イルム」イルム又輸を土人裸體めて腰にあらいさす
 藍印者海中不没するもの二十尋傳た。ちよ
 海産ものなり。真珠母ハ撈出日中不あれを晒

其の目は口おのりく冥の如く候て。其珠と取るとあり。伯氏の伝

○彌腰臺 附 廉角臺 同上

當時百爾斜亞國王（ミヤコ）の臺は建是彼ひ後する

不の回々國人の以は聚て築くそのあり。回々國の子

中不説あり。東見のく西洋の地を又け地名あるありと。又大不獵して一圍は廉角

獲事三万。其の才疏と後世不傳へん。廉角

を集りて臺と名ん。今お不存と名ん。明佛説

万國異言 中の説

○天下の戒指とす 同上

都児格人之圖

紅毛倭板の万國地圖及び各國の人物を尺寸に
皆中ふ裁りたるあり



都児格ハ世界才一の法玉ありて。亞細亞の
亞弗利加。歐羅巴の
三大洲の
分つて亞
細亞都
児格。歐
羅巴都
児格。亞
弗利加
都児格
と名ん。其
今ハ我闘
治め甚
患とす。其
等の國も
手ふりち
そのあり

護送軍之圖

同上



巴爾齊亞海中明人の黙生丁海と稱するもの是有り勿心魯謨斯魯謨斯小島
 ありといふも。亞細亞。歐羅巴。亞弗利加の中央より
 行くやゆに。三大沙の富商大賈はね不往來す。切が
 およ百貨駢集あつまるる一人烟輻輳を。海内の珍奇ちんき
 をもち致いた一いっぐさたものありとも。袋の物ものたる
 よう。いと安くもふ入いれとぞ。土人のらく若天下
 一の戒指めいぎおたると。吾勿心魯漢斯ハ。戒指めいぎ
 を見ざる。寶石ぎやくしこれ所ところふべいと自負まがすることあり。
 明人の説

○護送軍附駝之説亞刺皮亞

と。紅毛あて「カラハ子」にトリスの畧説あり。と。譯して渡送軍
 といふ義あり。トリスの畧説あり。 明人ハ「カラハ子」
 此防寇と譯せり。海沙場まかばらを行又腕うでを用ひるハ
 此獸百貫目の花所定さだまとす。昼夜弛ゆるて芳々
 して志こころとど。其脚長あしなががおよ。沙漠さばくの行ふ足元
 よし。一見ひとみ小麦こむぎのこ大芋魁おほいもをこある如五ツ
 六ツ食くし。又乾草かんだとか齧かふハ十日じふにちもくふくふ
 一ト反飲ひらき也。後中能のちのちあり如行いりくふくふくて。曠地
 のあり水みづ乏なしき味あじハく後のちと割きてあり如く搗う法ほう
 冷ひやめて飲のみま堪たうりとも。其骨肉皮毛くわつにくひげことごと

く茶用ちやよう小宛せうわん形状けいじやう主治しゆぢハ和蘭茶選わらんちやせん小詳せうじやうあり。
本州の説ハ甚粗あり 紅毛べんぼう語ごあて「カメル」カメルとふ。と此物このもの来きる
 テレテレ。口くちとふ紋もん天てん穢さい織おのぬき毛布ふハけ熟じゆくの毛
 如ごとく織おる物のようなり。あらうる味あじハく甚し益えきある
 獸けあり。吾邦わがくにあてもか若わ駒馬こまのからうりきひき
 其のあを周又ちつふ。テレテレ。口くちハく童人どうじんの靴靴くつ小用せうようあり
 料りやう此織物このおあり好るものの人た烟包たばこ挾囊けつなんありとり
 似にて材料せうりやうとする事ことなられ。

○莫卧爾國

明儒の説めいじゆ曰い五印度ごいन्दの内うち南印度なんいन्दのと古ふるはま

莫卧爾國男子之圖

此圖ハモウレタイヒトノ
紅毛書ノ裁ク所アリ



同婦人之圖



建ハ石人数が千をこくわくけりける。是昔時此を
避く民は穴居志るが死して後を
遺るや。化して石をかくるなりと。明徳の
説
予先年垂書を見し内は大方石窟の内は
十字形ふたつある死人数百立をあり人形を
て其死骸がわらわらるるの画幅をえり
書の名をも忘れし。され彼石人の骨を
しや。越後此國にある名の弘智法印も石人
の一種ありし。

○跨海石梁 同上

那多里亞と。都見格の東海をりて海つ其間を
と。い。那多里亞王失尔塞ありとの大
土石の功あり。海に跨がる石梁を架て其地
を通連す。後代ふりて。風浪は衝撃せし其
梁頽廢せしとあり。明人の
説

○如德亞の國史

明人の説より。天下の諸國に。上古の事跡を
記する史ありし。その史をよみ。八千年を記
するものも。三四千年ふりて。其史をわくは。此
地にありし。其史を「シロテヤ」如德亞國の史書ハ

完辟くわんぱくよりして六十年来。世々の史官筆と絶た。
歴代れきだいの事實じじつを記す。委曲わいきよく分明めいめいにして
いづれも脱漏だつろうあり。

○的里亞加 同上

如德亞の西小國あり。連馬斯谷とす。主人一藥を製す。
是名あり。的里亞加と名づく。能百病を治す。尤
りしく此毒を解け。此藥を試す。先づ乃
毒蛇どくごを覓りて。身体と咬傷こうじやうし。免毒めんどくを投じて。腫
脹あはれ時ときの葉はを許ゆるす。即すなはち愈よす。とす。
か。各國こくごくよりして珍異ちんいとす。明人の説。本草綱

目小底野迦めいせいの。苦寒あり。て毒あり。百病中惡。客忤。
邪氣。心腹痛。積聚と治す。とあり。集解しゅうげつ小蘓恭曰。
西戎より出づ。彼人よりく猪膽ちゆうたんを用いて。これ沙
伯さくと。形かたち久壞くわいの丸まる葉は不ふ似にて赤黑也せきくろいあり。
華人のいへり。久壞丸葉ハ。即チ糖葉のるを也。彼邦ハ。皆盛
丸も。吾邦のてき糖葉と云ふのハ。胡人こじんをくたけ
さへ来る。甚これ沙伯を以て用試もちかかむ。効あり
と載のる。此仙丹ハ西庠の人。常つねに用也。不ふしして。
起死回生の妙薬あり。吾邦わがくにあり。極たぎめて
齋いし来るきこもの。と覓得みえる。あまといふも。極たぎめて
滑易なめくする。煉ねん葉は。ワケわくく瘡そう瘡そうの死しふつる

人をして沈^{おぼ}き^まむ^らふ。入^いり^りぬ^りて止^とぬ。海^うの^み日^ひ
に映^{うつ}り^ぬれ^るハ五^ご色^{しき}の文^{ぶん}彩^{さい}と^なす。其^{その}海^う中^{ちゆう}水^{すい}族^{ぞく}
を^を生^なせ^しむ^らふ^らふ^らと^して。死^し海^{かい}と^なづ^くと^なん。紅^{こう}毛^{もう}
人^{にん}ハ「ド^ドー^ドー^ド」と^いふ。「ド^ドー^ド」ハ死^しの^ごい^い「ゼ^ゼイ^イ」ハ海^う
の^の中^{ちゆう}良^{りやう}薬^{やく}に。其^{その}海^うの^の石^{いし}腦^{のう}油^{いう}の^の一^{いっ}種^{しゆ}の^ごべ^い。石^{いし}
腦^{のう}油^{いう}の^の者^{もの}ハ火^か脉^まの^の苗^{めい}の^の地^ち中^{ちゆう}小^{せう}瑊^{ぜん}珀^{ぱく}と^なす
ま^まの^のく^くを^を溶^と蕩^{たう}て^てけ^ける^るの^のと^とら^らん。垂^すれ^りり
す^す及^及べ^べり。



萬國新話卷之一

明治廿六年六月紫原氏ヨリ承之

五册之内

尚古堂

楊本氏